



波濤を越えて 11月号

平成30年11月20日
屋久島町立安房小学校

作品コンクール入賞者紹介

「朝日新聞社主催全国小・中学校作文コンクール鹿児島県審査」

【県議会議長賞】2年 T・H

「県図画作品展熊毛地区審査会」

【特選】 1年 T・S 2年 F・J W・K
4年 T・K 6年 I・R K・T

「町理科作品審査会」

(採集の部)

【特選】 4年 F・M S・K

【入選】 1年 K・K 4年 K・M H・Y
(理科に関する研究記録)

【特選(地区審査へ)】3年 K・K 4年 W・S
6年 T・D T・Y

【特選】 1年 K・R 2年 I・N
5年 K・S

【入選】 3年 I・T 4年 H・K 5年 K・S
6年 K・Y

「オリオン三星賞」

【佳作】 3年 M・S 4年 T・K
6年 T・A H・M

「町青少年健全育成標語審査会」

【学校賞】安房小学校

【最優秀賞】6年 H・K

【優秀賞】2年 W・K 4年 S・K

【入選】1年 K・R

< 12月の主な行事 >

3日(月) 校内人権旬間(～8日) あいさつの日

4日(火) 特別校時 人権教室 PTA評議員会

6日(木) 特別校時

7日(金) 人権集会 持久走大会 学級PTA

8日(土) 土曜授業 屋久島ジュニア検定

10日(月) 清掃強化週間(～14日)

11日(火) 租税教室(6年)

18日(火) 特別校時

19日(水) 特別校時

20日(木) 特別校時

21日(金) 終業式

23日(土) 子どもとっしょに読書の日

1月8日(火) 始業式



準備力

校長 常深 章

「かごしまの教育」県民週間では、たくさんの方々にフリー参観や学習発表会においていただき、ありがとうございました。この期間中、これまでの卒業アルバムも展示しました。懐かしい思い出に浸っている方も数多く見受けられました。今後も地域とともにある安房小学校としてあり続けたいと思います。地域の皆様もどんどん学校にお越しください。

21日(水)、6年生が体育でラグビーの研究授業をします。「ラグビー」とは、腰につけたタグ(帯状の布等)を奪われないようにボールを敵陣に運んでいくゲームです。タックルの代わりに、ボールを持っている人のタグを奪うのです。もちろんラグビーですので、ボールを自分より前にいる味方にパスしてはいけません。仲間同士の連携が必要で、チームワークがとても大切な運動です。授業では、子供たちが汗をいっぱいかきながら、声を張り上げ、笑顔で取り組む姿を楽しみにしています。



3年前のラグビーワールドカップ2015イングランド大会で、日本が南アフリカに歴史的な金星をあげたことを今でも鮮明に覚えています。その時の指揮官エディー・ジョーンズヘッドコーチが、著書「勝つための準備」の中で「準備と努力が自信をもたらします」と述べています。そして、「準備と努力は貯金のようなものです。すればするほど自信が蓄えられていきます」と言い切っています。

子供たちに自信をつけさせたいと思っている親や教師は大勢います。しかし、結果だけにこだわり、準備の大切さを理解させているかどうかは疑問です。テストの準備や、明日の授業の準備がしっかりできていると、自信を持って登校できます。試合までの練習がしっかりできていると、自信を持って試合に臨めます。自信の全ては万全の準備にあります。

12月には持久走大会があります。短距離走と違い、長距離走は練習次第で記録がぐんと縮まります。準備万端なら自信を持って大会に臨めることでしょう。準備や努力もしないで、「自信がない」と逃げ出すことがないように、しっかりと走り込んでほしいものです。目標に向かって準備する力を「準備力」というならば、自信を持たせるためには、「準備力」を子供につけさせることが親や教師に必要なことではないかと思えます。

一人一人が輝いた学習発表会

学習発表会に向けて、子供たちは日々練習を積み重ねてきました。本番では、国語、音楽、体育や総合的な学習の時間等に学んだことを、観衆に伝えるように台本、セリフ、動きや歌を工夫して堂々と発表することができました。一人一人が輝いた学習発表会になりました。多くの保護者、地域の方々においていただき、温かい拍手をたくさんいただきました。ありがとうございました。



南三陸沖区長さんによる講話

本校の卒業生が、以前ボランティアで訪問した縁で、南三陸沖の区長さんが6年生へ東日本大震災についての講話をしてくださいました。津波の被害、津波対策、家族のことなどについてお話しになり、子供たちは「自分の身は自分で守る」ことの大切さについて考えていました。



がん教育「いのちの授業」

NPO法人がんサポートかごしまから2名の講師が、がん教育「いのちの授業」を5・6年生にしてくださいました。御自身の経験談を中心に、がんという病気、死ぬこと、生きること、家族のこと等多くのことを子供たちに伝えてくださいました。

